

埴輪から調べた
耳飾りの歴史

高崎市立城東小学校 6年

池田 明生

きっかけ

学校で縄文時代～古墳時代までの勉強をして古墳時代に出てきた埴輪に興味を持った。インターネットで調べてみると、突っ立っている物や装飾がすごい物、馬などの動物の形をした物など、色々な種類の埴輪があり、更によく知りたいと思った。特にアクセサリーをつけている埴輪がいることに驚いたため、アクセサリーについて掘り下げて調べることにした。

1. 埴輪について

<埴輪とは>

古墳の上や周りに並べられた焼き物のこと。王の眠る古墳を守ったり、自慢の馬や武具を並べて力を示したりするなどの目的で作られたとされている。また、埴輪は死者のたましいを守ったり沈めたりするとも考えられている。

群馬県は、埴輪の質と量の多さから日本一の埴輪県と知られている!!

国宝や国指定重要文化財に指定されている埴輪のうち40%が出土している。

<埴輪の種類>

- 円筒埴輪 ... 弥生時代に墓に供え物を入れるつぼののせる台が進化してできたもの。円筒埴輪をくっつけて列にして並べて人が古墳の中に入れなくするための柵の代わりの役割があった。



▲ 円筒埴輪
（高崎市、少林山台遺跡）



（埴輪の種類の写真は全て「東国文化副読本」～古代ぐんまを探検しよう～より）

● 形象埴輪 ... 古墳時代の衣服や髪型、建築様式などを知ることができる。



① 家形埴輪 - 住居や倉庫など様々な形があり当時の建物を知ることができる。



② 器財埴輪 - 楯や刀の武器など王の権威を示すもの。

帽子形 盾形

③ 動物埴輪 - 狩で人を助ける犬や古墳に埋葬された王に関わる動物たちの形で、



当時いた全ての動物たちが表現されているわけではない。

犬

馬



盾持ち人

巫子

④ 人物埴輪 - 巫女や武人などの王の行った儀式に関係した人物を示すもの

思ったこと

群馬県は埴輪大国と言われるほどたくさんの埴輪が発見されていて驚いた。馬馬ってすごいなあと思った。埴輪はその当時の人の服装や髪型、建物の作りなど、知ることができるものなので、埴輪がますます面白く思えた。

2. 埴輪の装飾品

古墳時代の装飾品は、出土した人物埴輪から知ることができる。

沢山の装飾品がつけられている埴輪はとて
すこい!

大きな耳飾りが気になるので、調べてみることにした。



(ぐんま東国文化博物館蔵)



(知られざる古墳ライオン)

< 縄文時代～古墳時代の耳飾りの違い >

時代	内容
縄文時代 早期	土製と石製の耳飾り 上野原遺跡出土 (鹿児島)



(公財) 鹿児島県文化振興財団
上野原縄文の森 ホームページ

- ・耳たぶに穴を空けてピアスのようにつけるもの
- ・土製の耳飾りは、うずまき文様や赤いベンガラで彩色したものがある
- ・縄文人のおしゃれやお守り感覚でしていた

縄文時代 前期	けつ状耳飾り 寺山遺跡出土 (広島県)
中期	



ひろしま WEB 博物館 ホームページ

- ・主に縄文時代前期～中期にかけて流行した
- ・石をけすって作られたもの

縄文時代 後期	土製耳飾り 茅野遺跡出土 (群馬県榛東村)
晩期	



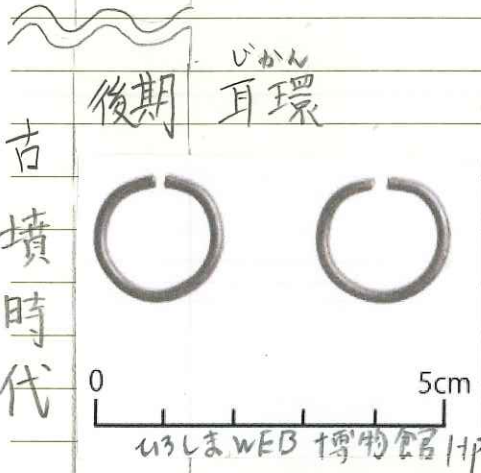
土偶の頭部破片と耳飾り

- ・主に縄文時代後期～晩期の集落、国指定史跡の出土品
- ・「メツカーたむんよう」上段
自分の村で考えた
- ・「ご当地もんよう」下段があった

耳飾り館に行って参考となる話が聞けました。良かったです。



時代	内容
弥生時代	<p>耳飾りは一時期されなくなった → “考えられる理由”</p> <p>他のくしやかんざしなどのかみ飾り 勾玉の首飾りなどは身につけられていた。</p> <p>好んで耳飾りをつけていた習慣が弥生時代はなくなった 使う意味がなくなったからではないかとも考えられている</p>



- 古縄時代後期〜よく出土している
- 純金・純銀製のものが銅の芯に金や銀箔をはたものなどがある
- 耳たぶにはさんでつけるもの

剣崎長瀬西遺跡出土 (群馬県高崎市)



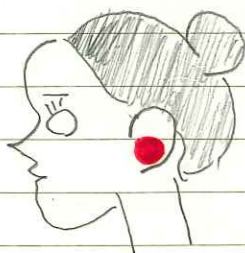
高崎市ホームページ

^{あしほくつきみりかざり}
金製垂飾付耳飾

- 純金製で長さ 7.8cm
- 耳飾りの他どきなど復元人の存在を思わせる数々の物が発見された

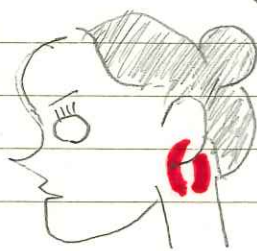
縄文時代

古墳時代



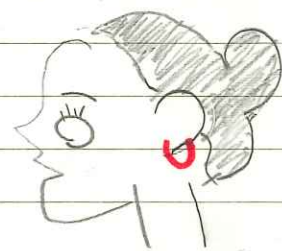
耳飾り

耳たぶに穴を空けてはめこむ



けつ状耳飾り

耳たぶに穴を空けて耳飾りを通す



耳環

耳たぶを耳環ではさむ

3. 耳飾りは古墳時代まで?

奈良時代以後は、耳飾りをふくむアクセサリーを身につけている習慣がすたれ、江戸時代まで身につけなくなつたようである。理由としては、確かな事は分からないが、次のような理由が考えられる。

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
室町
安土桃山
江戸
明治

① 日本の国家ができた

古墳時代は権威の象徴であり大陸との結びつきを示す物であった。

その後一つの国として編成されていくこととなり、豪族の人たちが個別に権威の象徴を示す必要がなくなってきた。

② 仏教が入ってきた

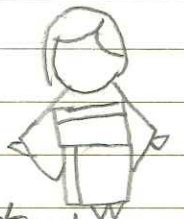
仏教の教えに「親からもらった大事な体に傷をつけるのはよい事とされぬ」という教えがあり、耳に穴を開ける事もよい事とされなかつた。

また、子経(道徳)というものがあり、「親やご先祖様を大切に」という教えがあり、ここにも自分の体を傷つけることはいけないとされていることも関係しているようだ。



③ 新しい文化が入ってきた

色鮮やかで着物などを着ることがアクセサリーを身につけておしゃれをするかわりとなっていたようだ。



4. その後耳飾りが広がったのは...

明治時代に文明開化などで新しい技術や文化が入ってきて耳飾りも広がった。

着物を着ていた時代は耳飾りなどのアクセサリーをしていなかったが、西洋の人が着ていた洋服を着るようになり、アクセサリーを身につけるようになった。戦争が終わり高度成長期になり、少しずつ一般人もおしゃれをするようになった。

5. まとめ

縄文時代から身につけられるようになった耳飾りなどのアクセサリは、国の状況や仏教、他文化が広まったことにより、時代によっても年々形、材質なども変わっていた。

縄文時代につけていた「けつ状耳飾り」は現代でいうピアス、古墳時代につけていた「耳環」は現代でいうイヤリングとして、歴史は続いているようだ。

6. 感想

埴輪の耳飾りを調べていき、群馬県はたくさんの埴輪が出土されている埴輪大国であり、たくさんの古墳もある「古墳県」でもあることがわかった。群馬県はすごい。私は埴輪から興味が出て調べて、私たちが現在身につけている耳飾り（アクセサリ）は大昔と理由が違ってもこんなにも歴史があるのだと分かり本当におどろいた。

まさかこんな大昔から身につけていたとは思いませんでした。

昔の人が手作りで耳飾りを作るのと同じ思い？で私も現代の耳飾りを作る道具（レジンというもの）で作ってお母さんにプレゼントした。

（色々な思いをひめて）喜んでもらえて良かった。

埴輪の耳飾りのことを調べたので、今度は古墳について調べてみようと思う。お気に入りの古墳を見つけて、お気に入りの埴輪も見つけてみようと思う。この研究がきっかけで、知らないことが知れて良かった。

<引用、参考文献、聞き取り>

- ・ 東国文化副読本 ～古代ぐんまを探検しよう～
- ・ 東国文化ガイドブック「ぐんま東国文化ものがたり」
- ・ 榛東村耳飾り館のチラシ、リーフレット、解説シート
- ・ (公財)鹿見島文化振興財団 土野原縄文の森ホームページ
- ・ ひろは WEB博物館
- ・ 知られざる古墳ライフ 著者：響田亜紀子
- ・ 全国子ども古学教室 (特定非営利活動法人むきはんだ応援団)
- ・ アクセサリー考古学 著者：高田賢太
- ・ 聞き取り 榛東村耳飾り館学芸員さん